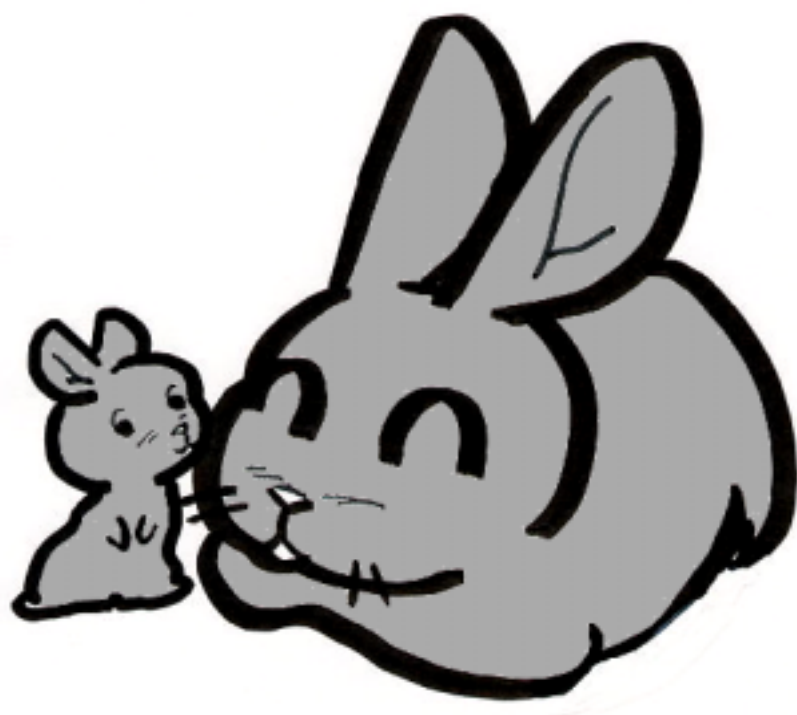


学校飼育動物 のかいかた (うさぎ編)



長野県動物愛護センター
ハローアニマル

〒384-0041小諸市大字菱平字前新田2725

TEL. 0267(24)5071

FAX. 0267(26)3282

うさぎのからだ

うさぎは、5～7年生きている。 毎日よく観察して、正しい様子を覚えておこう。

みみ 大きくて、小さな音がよく聞こえる。左右別々に動かすこともできる。体温調節もしている。



め 頭の両側についていて、360度見ることができる。いろいろな目の色がある。目を開けたまま眠ることができる。

は 28本。一生のびつづける。1年で10～12cmものびる。上あごの前歯(切歯)は、ネズミとちがって4本ある。

においつけ

あごの下に臭いを出すところがあり、こすりつけて臭いをつける。おとなのメスは、脂肪が多い。

け 春と秋にぬけかわる。



お腹の中のもう腸の大きさは、胃の10倍もあり、とても重要な働きをしている。

まえあし 指は5本。つめはすどく、穴を掘るのが得意。あしのうらには、毛が生えている。

うしろあし 指は4本。うしろあしをタンタンならして危険を知らせる。



おしりに直接口をつけて食べる

コロコロした硬いうんちと軟らかいうんちがある。軟らかいうんちは、もう腸便といってタンパク質やビタミンが豊富。うさぎは、おしりに口をつけて直接もう腸便を食べる(食ふん)。必要な栄養をとるために食ふんはとても重要。



オスとメスの見分け方

オスは3ヶ月半でこう丸が下がるので見分けがつく。それ以前にオスとメスを見分けるのは、とてもむずかしいので、4～6ヶ月の間に確認しよう。

指で生殖器(オチンチン)の両側を押し開くようにして見る。オスはつつ状で、メスはたてに割れている。



うさぎのたべもの

お腹の調子を整える **ほしくさ** (できればペレットも) を中心に、新鮮な **やさい・くさ・くだもの** などをバランスよくあげよう。

うさぎ用ペレット

小さくて適度に硬いものが歯ののびすぎを防ぐ。バランスのとれた食べ物なので活用しよう。ペレットは1日朝夕2回、体重の5%の量を与えよう。

ほしくさ (乾草、牧草)

ほしくさは、お腹の働きを助け健康に飼うために必要な食べ物なので、おもにあたえよう。また、歯をすりあわせて食べるから、歯ののびすぎを防ぐこともできる。ワラ、チモシー(イネ科)は、高せんい質で消化を助ける。アルファルファ(マメ科)は、高タンパク質、高カルシウムなので与えすぎに注意しよう。



水 毎日とりかえよう。容器をくわえてひっくりかえすことがあるので、ボトルタイプのほうがよい。

やさい・くだもの

水分の少ない緑黄色野菜を中心にあげよう。レタス、キャベツ、ハクサイなどは栄養が少ないから与えすぎに注意しよう。

くさ (野草)

タンポポ、クローバー、ハコベ、オオバコ、レンゲ、ナズナ、ぺんぺん草などを少量あげよう。農薬や、犬猫の糞がついていない物を選ぼう。



新鮮な生野菜や野草がたくさん与えられていると、ほとんど水を飲まないこともあるが、夏場は水分不足にならないように注意して、必ず水を与えよう。

あげてはいけないもの

ジャガイモの芽や皮、ネギ、玉ねぎ、ニラ、ニンニク、アサガオ、スイセン、わらび、毒の野草、人間の食べているおかしなど



胃の入口はとても小さく、毛づくろいしたときにたくさん毛を飲むと胃の中でボール状になることがあるので、繊維質の多い物や、パパイヤ、パイナップルなど消化を助ける食べ物をあげることもよい。

おとなになっても小さい時に食べたことのある物しか食べないので、小さい頃からいろいろな味にならそう。

うさぎのおうち

うさぎの数を増やさないようにするならば、オスとメスを分けよう。

さく
1m以上必要。

夜は、カギの閉まる部屋に入れよう。
ワラなどをたくさん入れてベッドを作ってあげよう。



床
土のままだと穴を掘って逃げてしまうので、防水コンクリートがよい。
水がたまらないようにゆるやかな傾斜が必要。
中にはワラや干し草を入れてあげよ。

食べ物
新鮮なものをあげよう。
食べ残しはかたづけよう。

水
新鮮なものをいつでも飲めるようにしよう。
こぼさないくふうをしよう。(ボトルタイプがよい)

うんち、おしっこで汚れたしきワラや、食べ残しのやさいは毎日かたづけよ。

かじり木
などを用意してあげよう。

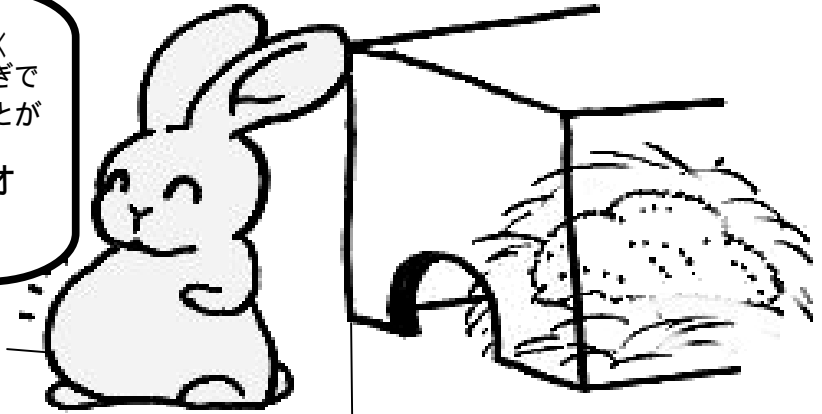
木箱などでかくれ場所を作ってあげよう。

うさぎは、温度が高くしめりけが多いところで飼育すると、皮膚病や呼吸器の病気になりやすいので注意しよう。温度は、16～21 くらいがいちばんよい。
夏は、陽よけを設置し風通しを良くしよう。
冬は、すきま風を防いでワラなどをたくさん入れてあげよう。
また、せまい所にたくさんのうさぎを飼うと、ケンカをしてケガをしたり病気になりやすくなるので注意しよう。飼育場所がせまい場合は、木箱などの隠れ場所をたくさん用意してあげよう。

うさぎのあかちゃん

おとなのオスとメスをいっしょにしておくと、あかちゃんがうまれる。1匹のうさぎで1年に8回まであかちゃんをうむことができる。増やしたくない場合は、必ずオスとメスを分けて飼おう。

妊娠(あかちゃんがおなかにいる)期間は30~32日間。妊娠中はカルシウムやビタミンの多い食事をあげよう。



うまれる7~10日前から乾草などを集めてあかちゃんをうむベッド作りを始める。暗くて静かなあかちゃんをうむへや(木箱など)を用意してあげよう。うまれる2~3日前になると、自分の胸や腹の毛を抜いてベッドを作る。



うさぎは1回に6~8匹のあかちゃんをうむ。うまれたばかりのあかちゃんは毛が生えていない。目も開いていない。のぞき込んだり、触ったりしないようにしよう。人のおいがつくと、おかあさんうさぎがあかちゃんうさぎを食べてしまうことがある。



おちちをあげるのは1日1回3~5分間だけ。うさぎのおちちは高タンパクなので、もし人がおちちをあげる場合は、猫用ミルクを1日3回あげよう。



うまれてから10日で目が開く。4週目頃から外に出てきてやさいなどを食べ始める。8週目以降であれば触っても大丈夫。

うさぎを移動するときは布の袋などに入れると安全。



うさぎのだきかた

片手で首筋をしっかりとつかみ、反対の手でお尻と後ろ足を抱え込むようにして支える。うさぎの足がぶらぶらしないように自分の体につけてしっかりと抱く。うさぎの骨は軽くて折れやすいのでくれぐれも落とさないようにしましょう。